

(公財) 中村元東方研究所／東方学院

# 東方だより

令和4年度後期号(通号第41号)

〒101-0021  
東京都千代田区外神田 2-17-2  
延寿お茶の水ビル 4階  
TEL : 03-3251-4081  
FAX : 03-3251-4082  
<http://www.toho.or.jp>  
<https://www.toho-gakuin.org>

## 目次

理事長ご挨拶	1頁
評議員・理事ご紹介	2・3頁
芳名録	4頁
講師紹介・研究会員・研究員の声	5～7頁
行事イベント報告・今後の行事	8・9頁
新刊紹介	2・3・4・8頁
事務局通信	10頁



## 明恵上人のこと——その一

——理事長ご挨拶にかえて——

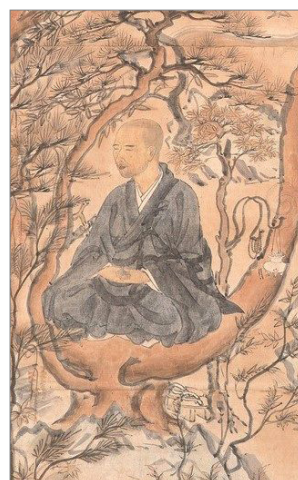
### 藤井教公理事長

日本の仏教者の中で、妙に心に残るというか、気になる印象を受ける人々がいる。それはその仏教者の到達した宗教的精神の高さによるものであったり、純粋性であったり、あるいはその行いの奇矯さであったりするが、それらの原因によって普通の人とは異なる印象を醸し出している人々である。筆者にとってそのような印象深い仏教者の一人に明恵上人がいる。今回、彼について感ずるところを二回に分けて記してみたい。

明恵上人(1173-1232)は、平安末から鎌倉時代にかけての有名な仏教者であるから、彼を知る人は多いと思う。彼は伊勢平氏の武士、平重国を父に、紀伊国田原の豪族、湯浅氏の娘を母に、紀伊国田原で生まれた。ちなみに、浄土真宗を開いた親鸞と同年の出生である。明恵は後に『摧邪輪(さいじやりん)』を著して菩提心の重要性を説き、念仏往生思想を批判して親鸞とは正反対の思想的立場に立っている。

明恵は数え年8歳で両親を喪い、翌年、母方の叔父、上覚を頼って京都高尾山神護寺に入った。ここで『俱舎論頌』や『華嚴五教章』、悉曇などを学び、顕密双修の修行をし、16歳で上覚について出家した、この年に東大寺戒壇院で具足戒を受ける。後には上覚の師、神護寺住持の文覚にも学んでいる。明恵は引き続き華嚴教学を学び、奈良の東大寺にも足かけ2年に亘って住したが、同寺における党派間の争いに嫌気がさして、俗縁を去って山林に交わる決意をしたという。それで23歳の時、彼は高尾山を出て紀州白上(しらかみ)の峯に庵を結んだ。3年後に一旦、高尾山に帰るが、再び白上に戻り、「信」と「智」を得るためにひたすら文殊師利菩薩に祈ったという。そして自身の覚悟を確認するために右の耳を自ら切り落としたという。狂気のせいでなく、仏道修行への不退転の決意を示すものであったという。そのような修行の成果として彼は文殊師利菩薩の金色に光り輝く好相を空中に見ている。

明恵は宗教的感応力に勝れた人であったようで、驚くのは仏菩薩あるいは日本の神々と明恵自身との距離の近さである。弟子の喜海の『明恵上人神現伝記』によれば、明恵は30歳の時、白上の峰から母方の在所に移り、保田庄星尾(ほしお)に滞在した。その翌年の正月に、春日明神が叔父湯浅宗光の妻、橘氏に憑依したという。午の刻(昼ころ)に、橘氏が神懸かり状態になり、新しい筵を乞うて鴨居に懸け、忽ちその上に昇って次のように言った。



紙本着色明恵上人像〈高山寺蔵、国宝〉部分

「我は、これ春日明神なり、御房西天の修行を思立しめ給ふ、この事とどめ奉らんがために降れるなり」と。  
ちようどこの頃、明恵は弟子の喜海らと共にインドの仏跡巡礼を企てており、長安からインドの王舎城に至る旅程の検討をしていたところだった。春日明神はこの明恵のインド行きを思いとどまらせるために出現したのである。一度だけでは虚実が知られないと明恵が善財善知識の図像の前で祈ると、春日明神は再び橘氏を依り代にして現れて、インド行きを翻意するように促したのであった。

この二度に亘る春日明神の託宣に明恵は随い、インド行きを断念した。春日明神は明恵にとって特別な神である。弟子の高信(こうしん)が「上人託胎の時より、殊に擁護を致し、遂に託宣に及ぶ。種々の契約有り。故に之を勧請す。」と記しているように、明恵が「託胎の時より」擁護を受けていた守護神であった。つまり、明恵にとっては日本の神祇の一つ春日明神が、いわば生まれついてより極めて身近な存在として意識されていたということである。それは明恵の仏教の教学思想に関わる観念的な存在としてあるのではなく、「託宣」や「種々の契約」という、実際に明恵自身の意識や行動に大きな影響を与える具体的な存在としてあったのである。(続く)

## 評議員・理事ご紹介

### 評議員就任から今まで

#### 和田壽弘評議員



研究所の評議員のお話をいただいたのは、2016年春のことでした。前理事長の前田專學先生より職務内容を伺って、その重責を

とても果たせるとは思えず、ご辞退するつもりでお電話を差し上げました。先生は逆に大いに励まして下さり、先生のお言葉に納得してお引き受けることとなりました。同年6月以来、4年任期の2期目を務めています。

2期目の直前に長年勤めた大学を定年退職しました。大学奉職中には、文部科学省に提出する書類の作成や確認をする職務を一時期担いました。論文とは異なる文体に翻弄された日々も懐かしいのですが、退職後はこのような職務に縛られずに勉強したいという思いから、再就職は念頭にありませんでした。研究所の評議員会ではその運営方針など重要な議題もありますが、書類形式の確認などではかつての経験が役立っていると思うこともあり、貢献できるかもと感ずるようになりました。

た。

研究面では、昨年1月に初の日本語単著『インド新論理学派研究序説』（春秋社）を上梓しました。新論理学派の研究手法や主要な専門術語の機能を明らかにすることを通して、インドの伝統的思考の解明を目指しました。次は、論理学研究と平行してこれまで従事してきたこの学派の言語論研究の成果をまとめて英語で近いうちに刊行したいと思っています。この2年程は学派初期の存在論と認識論の両者に関わる主題、特に非存在あるいは否定的研究にも力を注いでいます。この学派の存在論・認識論や言語論が何らかの点で我々の哲学・思想と接点を持ちうるのではないかという期待を込めて、研究を続けています。

2022年3月より藤井教公先生が前田專學先生の後を引き継いで理事長に就任されました。新理事長の下、故中村元先生の高邁な理想を実践に移すべく設立された研究所の活動が、コロナ禍に負けず一層発展できまよう願うばかりです。そのために、微力ではありますがですが評議員としてお役に立ちたいと思います。

わだ としひろ

1954年岐阜県大垣市生まれ。名古屋大学卒業、ブーナ大学大学院（インド）修了。名古屋大学助手・助教授・教授、この間に同大学大学院文学研究科長・文学部長。2020年に定年退職。現在名古屋大学名誉教授。

## 新 刊 案 内

### 竹村牧男著『道元の〈哲学〉—脱落即現成の世界』



身心脱落の境地はどのように語られたのか。道元の生涯から、仏教の根本問題ともいえる生死の見方、宋にわたるきっかけともなる本覚思想への疑問に対する修証観、不立文字の禅において『正法眼蔵』を書き続けた背景にある言語観、存在と密接に関係する時間論、脱落即現成の世界と坐禅観、見性批判を丸ごと解説。あわせて鈴木大拙の道元観も論じる。第1章 道元の生涯、第2章 道元の生死観、第3章 道元の修証論1、第4章 道元の修証論2、第5章 道元の言語論、第6章 道元の時間論、第7章 道元の禅哲学—「脱落即現成」の理路、第8章 道元の坐禅観、第9章 道元の見性批判をめぐって、第10章 鈴木大拙の道元観

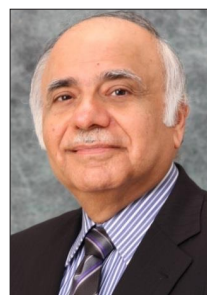
単行本：320頁  
出版社：春秋社  
発売日：2021年6月20日

ISBN-13：978-4-393-15232-4  
言語：日本語  
定価：本体 3,520円（税込）



## インスピレーションから トランスフォーメーションへ

### 比良竜虎理事



今年2023年は中村元東方研究所創立50周年、そして昨年2022年はインド独立75周年、日印国交樹立70周年にあたりましたが、2023年4月まで様々な記念行事・祝祭が予定されている中、長らくコロナの影響によって途絶えていた、日印双方の識者、研究者、霊性探求者が相互に渡航できるようになったことは大きな喜びでございます。

一方、このような社会情勢の中で、遠隔にあってITリモートで様々な会議、法要、式典なども行われるようになってまいりました。インターネットを通じて、私たち一人ひとりの「インナーネット」(ハートの結びつき)をいかに構築していくかも大きな課題です。まさに、現代は、人々の意識や価値観が大きく変化する時期であり、政治、経済、教育などあらゆる分野において、その変容が余儀なくされていく過程にあります。この大いなる社会変革において中村元先生の提唱されていたサナタナダルマ(永遠なる真理)こそが、

その羅針盤でなければなりません。

グールの家に住み込んで、その人格から学ぶというインドのグルクラのような精神的環境と、あらゆる垣根を超えて霊性の探求者の誰もが学ぶことの出来る日本での現代の寺子屋の精神を併せ持った、この中村元東方研究所の役割は、現代の多くの人々へのインスピレーションの源として、このような今にあってこそ甚大であると確信しております。

中村元先生にお会いした時を回想すると、中村先生のお人柄、その生き方はとても敬虔で、日々の暮らしの中に教えが満ちていると実感致しました。

制度や枠組みを変えていくことも大切である一方、人の心の変容によって、社会もまた自ずと変容していくのだ、と教えてくださっているようでした。

心に正義があれば 人格に美しさが現れる  
人格に美しさがあれば、家庭に調和が生まれる

家庭に調和があれば、  
国家に秩序が生まれ、  
国家に秩序があれば、  
世界に平和が生まれる。

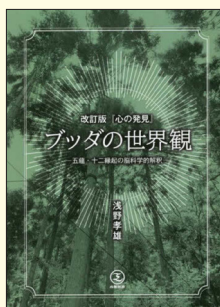
(聖者サティヤサイバ  
バ様のご高話より)

ひら りゅうこ

1948年インド生まれ(1976年日本国帰化)。HMIホテルグループ代表取締役社長として28都道府県において62軒のホテルを所有・経営する一方、多数のインド哲学の著書を翻訳・出版。公益社団法人日印工商協会会長、公益財団法人日印協合理事等を歴任。2022年、インド共和国の民間功労者に叙勲される最高位勲章「パドマ・シュリ」勲章、を授章。

## 新 刊 案 内

### 浅野孝雄著 『〈改訂版〉心の発見 —ブッダの世界観— 五蘊・十二縁起の脳科学的解釈』



2014年、前著「心の発見」刊行後、著者はNHK・Eテレ「心の時代」での対談、日本脳神経学会、日本インド仏教学会等など十指に余る学術講演に招聘された。現代日本人が「心」に高い関心を抱いていることの証左である。改訂に当たっては新たな学びも盛り込んだ。序論、第1部 現代脳科学とフリーマンの意識理論、第2部 情動神経科学、第3部 古代インドにおける世界観、第4部 ブッダの教説、第5部 ブッダの世界観

単行本：375頁  
出版社：産業図書  
発売日：2022年5月14日

ISBN-13：978-4-7828-0181-9  
言語：日本語  
定価：本体4,400円(税込)

## 令和4年度芳名録（五十音順・敬称略）

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げますとともに、ご芳名を記します。

※令和5年1月20日受領分までを掲載しております。

### 維持会員

一心寺 石上和敬 宇杉真 小笠原勝治 川崎寿子 川崎大師平間寺 来馬明規 高応寺（三友健容） 公益財団法人克念社 宗教法人西来寺 株式会社山陰中央新報社 史跡足利学校事務所 清水谷善圭 釈悟震 株式会社春秋社 淳心会（日野紹運） 末廣照純 浅草寺 高尾山薬王院 高橋堯英 高松孝行 多田孝文 中央学術研究所 トヨタ自動車株式会社 中田直道 成田山新勝寺 念法真教金剛寺（桶屋良祐） 藤井教公 公益財団法人仏教伝道協会 法恩寺（藤原浄峰） 法清寺（奈良修一） 前田專學 前田式子 松久保秀胤 三木純子 水野善文 学校法人武蔵野大学 吉田宏哲 渡邊信之 渡邊隆生

### 賛助会員

秋葉佳伸 阿部敦子 栗野芳夫 飯高淑子 石井勝彦 石井敏明 井上和子 今西順吉 入井善樹 石上智康 白井ふじ子 遠藤康 大井玄 太田正孝 大谷光真 小笠原隆元 岡田真水 岡田行弘 緒方康信 桂紹隆 加藤みち子 菅野博史 岸實瑩 北村彰宏 木村清孝 三石造形芸術院 倉田治夫 黒川文子 黒田大雲 小林和子 小林正和 小林守 小峰啓誉 古村けさじ 斎藤明 齊之平伸一 佐久間留理子 櫻井瑞彦 櫻井隆広 桜井俊彦 佐藤行教 慈光院（戸田忠） 真観寺（中村重継） 末本文美士 須佐知行 鈴木一馨 鈴木忠一 鈴木勇介 関戸堯海 高橋審也 田上太秀 武田浩学 立花ひろ子 田中勝洋 田中ケネス 田丸淑子 千葉よし子 鶴谷志磨子 天寧寺（永江雅邦） 當間哲也 公益財団法人東洋哲学研究所 一般財団法人徳育経営研究所 戸田裕久 鳥山玲 中谷信一 長野市南長野仏教会 中村行明 中村久夫 西内之朗 西尾秀生 西岡祖秀 西川高史 西宮寛 日本ヨーガ禅道院 長谷川恵子 長谷川善永 畠中光享 花岡秀哉 馬場孝至 羽矢辰夫 浄土真宗東本願寺派本山東本願寺（大谷光見） 引田弘道 一月正人 平井恭子 笛木敬代 福重利夫 福留順子 福原正直 藤井知興 藤田宏達 宗教法人法雲寺（水谷浩志） 寶幢院（原隆政） 保坂俊司 堀江順司 堀越教之 松浦和也 松本知巳 三木保 水谷俊一 宗教法人密蔵院（山口正純） 三友量順 宮元啓一 森祖道 宗教法人薬師院（松原光法） 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 桂徳院（山本文溪） 由木義文 好井瑞皖 渡邊寛陽 和田壽弘

### ご寄付

岡村光展 釈悟震 株式会社山陰中央新報社 株式会社春秋社 田辺和子 長谷川善永 比良竜虎 公益財団法人仏教伝道協会 松久保秀胤 松本照敬 御園生妙子 三友健容 吉田宏哲

### 東方学院大阪後援会

総本山四天王寺 加藤公俊 奥田聖應 森田俊朗 瀧藤尊淳 健代和央 南谷恵敬 塚原昭應 宮崎光映 吉田明良 廣瀬善重 坂本峰徳 森田惇朗 瀧藤康教 山岡武明 加藤公啓 新井順證 今宮戎神社 律宗総本山唐招提寺 念法真教 学校法人清風学園 平岡英信 古泉圓順 大神神社 宗教法人東大寺 四天王寺大学

### 東方学院創立50周年記念事業ご寄付

石上善應 石上源應 龍口明生 佐藤恭子

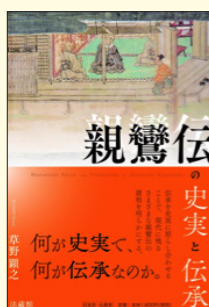
## 新 刊 案 内

### 草野頭之著『親鸞伝の史実と伝承』

何が史実で、何が伝承なのか？人々は親鸞のどのような姿を後世に伝えようとしたのか。親鸞の史実と伝承をめぐる問題について、伝承を史実に照らし合わせることを通して、現代に残るさまざまな親鸞伝の諸相を明らかにする。

単行本：249 頁  
出版社：法蔵館  
発売日：2022 年 10 月 25 日

ISBN-13：978-4-8318-6271-6  
言語：日本語  
定価：本体 2,090 円（税込）



## 東方学院

## 講師ご紹介

### 奥住毅講師

(東京本校)

#### 『百法問答鈔』の学び



最近『百法問答鈔』を読んでいる。古来日本唯識学の入門書として

知られた書である。著者は不明であるが12世紀菩提院蔵俊ではないかとの説がある(『百法問答鈔』序文書き入れ、深浦正文『唯識学研究・上巻』)。そうであれば平安時代末期の成立である。江戸時代17世紀の聞証は、この書の入門書としての絶大の価値を認めつつも叙述の過誤に着目し、その訂正のために『略述法相義』を著し、また註釈書『百法問答鈔私考』を著作した。入門書としての声価は高く、明治になってからも大内青巒や豊満春洞により新刊が刊行されている。

私が今から半世紀以上に唯識の学びに細々と志した当時、同行

の研究者の間でこの書の存在が屢々語られ、それを読み学ぶことの意義が指摘されていたが、漸く手に取って見る機会を持ったのである。唯識学習の入門的指南書として類書の中でも特出して良遍『観心覚夢鈔』が挙げられるが、この書は可成学習が進んで一応の見識を持つに至った者にして始めて堂奥に入ることが出来る程の書である。対して『百法問答鈔』は初学の者であっても直ちに読んで行くことが可能な程の平易簡明な叙述に成っている。しかも理論の展示が単なる理論のそれに終るのではなく、その細部の了解が独自で具体的に親切である。7、8世紀中国の秀逸に学んだ日本の唯識学が、この時代までに到達した高さに驚かされる。そして日本の唯識学の素晴しさが鮮やかに自覚されるのである。



おくずみ たけき

1938年千葉県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程満期退学。1982年より東方学院で中論および成唯識論の講義を担当。著書『増補改訂・中論註釈書の研究』(2014年)、『チャンドラキールティ『入中論』および自註(和訳)』(2019年)等。

### 小日向英俊講師

(東京本校)

#### インド音楽世界との出会い



初めての「インド音楽」の実体験は

1970年代に友人と行ったラヴィ・シャンカル来日シタール演奏会でした。インド香に包まれた幻想的世界が、目の前に拡がりました。すでにカウンター・カルチャー運動や、シタールを使ったザ・ビートルズなどの活動を通じて、世の中ではインド音楽への関心は高まっていました。ただそのときまでの私は、インドに音楽があることも想像しませんでした。

大学で音楽学を始めたテーマも、バロック音楽でしたから。しかし大学で受けた講義や、その後の現代音楽やジャズへの関心や演奏を通じて、インド音楽への道が開けました。いずれも、即興性が共通要素です。楽譜なしに師

匠の音を聴いて学習し、即興的に音楽を作り出す世界は新鮮で、自分でもやってみたいと思いました。国内で、ネイティブ音楽家にレッスンを受けられたことも幸いでした。その後、40年近く演奏することになるうとは思っていませんでした。

インド音楽で卒論を書いた後に、インドの大学院でインド音楽の歴史研究をしながらシタールを続けました。5年間のバナーラス滞在期間は、インド人の音楽世界に関する長期の参与観察となりました。

インド音楽にはラーガ(旋律)が多数存在します。地方のさまざまな音楽や、規範に照らせば誤ったものすら取り込み、創造性に変換してきた結果ではないと思います。まさに、ヒンドウ教の多神教世界です。是非、ごいっしょに、インド音楽世界を楽しみましょう。

こびなた ひでとし

1980年国立音楽大学楽理科卒、1987年インド国立バナーラス・ヒンドウ大学大学院修了(M.Phil. [Musicology])。現在、東京音楽大学客員教授(音楽学)。シタール演奏家。



東方学院  
研究会員の声

鶴田佐知子さん  
(東京本校)

“申し訳ありません、以前にも質問したと思うのですが…” 語学、美術、宗教と、興味の赴くままに様々な授業を受講させて頂いて頂ますが、先生方には質問に毎回丁寧にお答え頂き感謝致しております。本当なら、これからという若者たちが先生方の教えを受け触発されて次世代の研究へ繋がるべきところですが、現代社会では難しく、でも、お陰様で私たちリタイア世代も勉強する機会を与えられ幸せに感じております。コロナでは、有り余る時間の中、原始仏教訳本を開いたり、自分の一生の中で手に取ることがあるとは思えなかった本を読んだりもして、全て素人にも丁寧に分かり易くお教え下さる先生方のおかげとっております。又、オンライン授業はシニアの多い東方学院では無理では？と思いましたが、お休みされる方もおいでの一方で新しく遠方から参加の方もいらして驚きました。人が、動物でありながらも同時に思考し追求し努力する特別の生物であることを感じながら、学問は全ての人に開かれているという中村元先生のお言葉と真摯な生きざまが、しっかりと根づき、継がれていると感じております。



中村元先生のお言葉と真摯な生きざまが、しっかりと根づき、継がれていると感じております。

廣野良和さん  
(東京本校)

東洋に西洋論理と違う論理があるのかとの興味で林慶仁先生の「仏教論理学入門」を受講し初めて仏教論理学に接し、その世界を興味深く垣間見させていただいています。理解には遠いものの、論理自体は対象化できないのであれば、その違いを問うことは無意味であり、違いは言語ゲームならぬ論理ゲームの運用の違いではないかと思った次第です。

さらに仏教へ科学からアプローチする手法への興味から、浅野孝雄先生の「現代脳科学と仏教心理学」を受講しております。十二縁起を最新脳科学と意識理論から説明する独自のアイデアは革新的でした。

先生の手法を踏まえ、自然科学と人文科学（そして宗教へ）とを橋渡しするプロトコルが発達すれば（圏論は興味深い）、より学際的な議論が活発になると想像しています。

一方で哲学や科学と宗教はやはり決定的な違いがあり、仏陀の無記に仏教の大きな意味があるとも考えております。これを「わからない」と答えたら哲学や科学の側に立つことになっただろうと。



そんなふうに東方学院に通い、刺激をいただいている日々です。

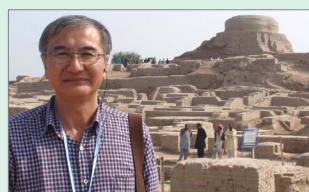
清水徹朗さん  
(東京本校)

インドと西洋の思想交流

私は日本の歴史、思想、文化、道徳（倫理）に大きな影響を与えてきた仏教とは何なのかを知りたいと思い、これまで様々な本を読みカルチャーセンターの講座も受講してみたのですが、十分な理解には至りませんでした。そこで、定年退職を機に2年前から東方学院に通い、仏教入門や仏教論理学、仏教心理学、中論、法華経などの講座を受講してきました。

私は学生時代から宇宙、生命、人間、社会、歴史、真理について論じた西洋哲学の本を数多く読んできたのですが、仏教やインド哲学が古代から西洋哲学と共通の問題を深く探求してきたことを知り驚きました。人類は異なる地域で同じ問題に別々にたどりついたのかもしれませんが、西洋（中東・ギリシャ）とインドは古代から相互に影響し合った可能性が高いと思います。

また、インド哲学や仏教が欧州の哲学者に与えた影響も重要であり、この問題は中村元先生が生涯追及したテーマでもありました。その仏教思想を本格的に学ぶことができる東方学院は貴重な存在であり、今後のさらなる発展を期待しています。



モヘンジョダロにて。後ろに見えるのはインダス文明の遺跡の上に後に造った仏塔の跡

## 研究員の声

### 有賀弘紀専任研究員

#### 研究の拠点として

初めて研究員になってから27年になろうとしています。途中、所属の変更や研究員に関する名称変更等がありました。ずっと研究活動の拠点とさせていたきてきました。また、一般的な研究機関にはない学院が設置されていて、平成16年より講義を一コマ乃至二コマ担当させていただいています。



たり、理系論文の翻訳語の問題を紹介していただいたり

等々、他では得難い知見や視点に触れることができました。

現在、サンスクリット語の詩を講読しています。何年もかけて読み進めてきた作品ですが、今年度はかなり丁寧に注釈に目を向け読むようになりました。注釈家のちよつと強引ではと思うような解釈もつとも、それはこういうことなのだ、といったるに相違ないのですが、に、文法学的な議論に接し始めたころ先輩方から聞いた「理の虚構性」や「叙述的」といった言葉が思い出されました。また、広い分野でやりたいことが出てくるなど、新たな刺激を受けています。

新型コロナウイルス感染症の出現から3年が経ちましたが、創立当初から尊重されてきた学際性豊かな場としてたくさんの方との交流ができることを願っています。

あるが こうき

1963年山梨県生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学。日本学術振興会特別研究員を経て東方研究会専任研究員となり現在にいたる。専門はインド哲学。論文として『ヨーガ学派の思想構造形成の背景と共生』『インド的共生思想の総合的研究—思想構造とその変容を巡って—』平成26～29年科研報告書所収など。

### 石川巖専任研究員

#### 学問的驚きの表出に向けての抱負



かし、それらをどこにも表出しないというのはもったい

50も半ばに至ったせいでしょうが、最近、一人でぼんやりとするようなおり、過去を回想してしまふことが多くなりました。そうした中、自分の研究の原動力というのは「驚き」であつたと思ひ至りました。現代日本人の私がチベットのフィールドで出くわすことは驚きとか衝撃ばかりでした。それらを他の人に伝えたいと思ひ、研究論文の形で何事かの成果として提出してきたわけです。しかし、研究としてでは伝えがたい驚きもあります。私は古代チベットの専門家ですので、それ以外のことを研究として書くこととするのは冒険、もしくは不可能となるからです。自分の心に蔵し続けてきた驚きは少なくはありません。しかし、それらをどこにも表出しないというのはもったい

ないように思えてきました。

20年以上も前になつてしまいましたが、我が研究所の機関紙『東方』15号は中村元追悼号でした。中村先生の全論著の目録が掲載されたのですが、そのおびただしい論著点数には驚かされたものでした。論著の種類もかなりヴァリエーションに富んでおりまして、大分な研究書から小エッセイの類まで様々でありました。中村先生はとにかく書き残しておくことを重視なさつたのがわかります。おそらく、意義があると感じたものに出会つたならば、即書くという姿勢でいらしたのではないのでしょうか。私が今取るべきはそのような姿勢であり、今までやってきた専門的な研究はそれとして継続しつつも、冒険的な研究に挑むなり、アカデミック・エッセイをも書くなりして、人に知らせるべき驚きを表出していかうと、この新年は考えております。



いしかわ いわお

1968年宮城県生まれ。中央大学大学院単位取得退学後、東方研究会(現中村元東方研究所)専任研究員。近著として『性愛と暴力の神話学』晶文社(共著)がある。



## 行事 イベント 報告

令和4年10月7日(金)開催

### 中村元東方学術賞・ 中村元東方学術奨励賞 授賞式

於インド大使館

公益財団法人中村元東方研究所の顕彰事業の一環として、第32回中村元東方学術賞及び、若手研究者に贈られる第8回中村元東方学術奨励賞の授賞式が、インド大使館オーデトリウムにて、2年ぶりに対面にて開催されました。



藤井教公理事長

なお、2022年は日印国交樹立70周年・インド独立75周年の記念すべき年であり、祝意を表して本式典をこれらの記念行事との協賛としております。

第32回中村元東方学術賞は大阪観光大学教授の佐久間留理子氏が受賞しました。佐久間氏は、観音菩薩を中心



佐久間留理子博士

にインド密教文化史の研究に多大な貢献をしたことが授賞の理由ですが、同氏は、ご自身の専門領域を「仏教文化史」と記されているように、これまで同氏が積み重ねてきた論文も、その対象地域はインド、ネパール、チベットと幅広く、内容も大乘仏教、密教、ヒンドゥー教などの広範囲に亘っています。このことは中村元博士が仏教・インド哲学を思想的にも地理的にも世界的な視野において捉えられたこととよく相応するという点も評価されました。

また、吉田宏哲大正大学名誉教授が、中村元東方学術特別顕彰を受賞しました。吉田宏哲博士の



吉田宏哲博士 研究は、蔵訳『大日経』と漢訳

『大日経』との比較対照を基盤とするもので、『大日経』に関する精緻な研究から、更に弘法大師思想の形成を研究して成果を挙げ、真言教学の確立に貢献されました。さらに、中村元博士が「一番槍」となってその設立に尽力され、初代会長となつてその後の発展に意を注がれた「比較思想学会」の会長を二期に亘つて勤められたことも、中村元東方学術特別顕彰に相応しいものとして授賞の理由となりました。

藤井教公理事長より、「中村元東方学術賞」、H.E. Sanjay Kumar Verma 駐日インド国特命全権大使より、「功績証明書」が授与され、和田壽弘名古

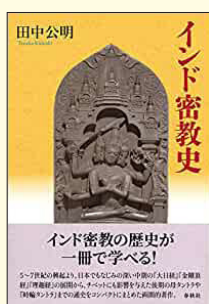


H.E. Sanjay Kumar Verma 駐日インド大使

## 新 刊 案 内

### 田中公明著 『インド密教史』

文献資料に加え、最新の考古学的知見を取り入れ、インド密教の原初形態が現れてから、『大日経』『金剛頂経』の成立を経て、チベット・ネパール密教の源流であるインド後期密教に至るまで、その歴史的展開を一冊でたどれる格好の概説書。



単行本：300頁  
出版社：春秋社  
発売日：2022年10月28日

ISBN-13：978-4-393-13458-0  
言語：日本語  
定価：3,300円(税込)



屋大学名誉教授ならびに藤田隆乗  
大本山川崎大師平間寺貫首から祝  
辞が述べられました。

また、若手研究者を対象とした、  
第8回中村元東方学術奨励賞を受  
賞した、西田彰一氏（国際日本



西田彰一氏

文化研究セン  
タープロジェ  
クト研究員）  
の『躍動する  
「国体」寛克彦

の思想と活動』は「寛克彦という  
思想家の生涯と思想と行動の全貌  
をはじめて総合的・本格的に調査  
検討した労作であり、間違いなく  
今後の算に関する基礎文献にな  
る重要な成果」として将来性を  
期待されている授賞です。

授賞式には、  
101名の出席  
者があり、各々  
の受賞者を讃え  
ました。なお、  
例年インド大使  
館で開催されて  
おりました祝賀



会は新型コロナウイルス感染拡大  
のため、中止となりました。



## 【今後の行事】

### ★法恩寺佛教文化講演会

高松市の法恩寺と共催の、芸  
術や仏教文化に関する講演会で  
す。申込者はどなたでもご参加  
いただけます。

【開催時期】 令和5年5月中旬

【会場】 法恩寺（香川県高松市  
鹿角町）

【講師】 未定

※詳細は決まり次第、ホームペ  
ージ等でお知らせいたします。

### ★神儒仏合同講演会

神田神社、湯島聖堂と共催の  
講演会で、申込者はどなたでも  
ご参加いただけます。

【開催時期】 令和5年7月下旬

【会場】 神田神社祭務所ホール

【講師】 未定

※詳細は決まり次第、ホームペ  
ージ等でお知らせいたします。

### ★東方学院・酬仏恩講演会合 同講演会

奈良・薬師寺と東方学院共催  
の講演会で、申込者はどなたで  
もご参加いただけます。

【開催時期】 令和5年11月下旬

【会場】 奈良薬師寺 まほろば  
会館

【講師】 未定

※詳細は決まり次第、ホームペ  
ージ等でお知らせいたします。

### 2023年度東方学院の

#### 受講申し込み受付中

4月から開講する東方学院の  
受講申し込みを現在受付中で  
す。オンライン科目も増強して  
お申し込みをお待ちしておりま  
す。

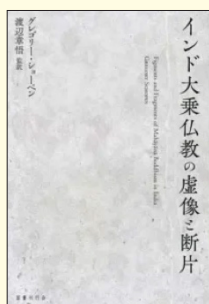
パンフレットをご希望の方  
は、お気軽にご連絡をお願いい  
たします。また、東方学院ホー  
ムページ (<https://www.tohogakuin.org>) でも詳細をご案内  
いたしておりますので、ご参照  
いただけましたら幸いです。

## 新 刊 案 内

グレゴリー・ショーペン著・渡辺章悟監修・訳

### 『インド大乘仏教の虚像と断片』

この四半世紀でもっとも影響力のある仏教学者と評されるグレゴリー・ショーペン。彼の  
手にかかると、経典の何気ない一節が、ありふれた寄進碑銘が、ほとんど注目されない仏  
典が、新たな相貌を見せ始め、インド仏教の生きた世界を語りだす。【虚像】では、初・中  
期大乘の一般的な展開を検討する（第1章から第6章）【断片】では、碑銘・考古学・美術  
の史料を検討して、インド仏教の生きた世界の一端を紡ぎだす。（第7章から第14章）



単行本：460 頁  
出版社：国書刊行会  
発売日：2022 年 12 月 16 日

ISBN-13：978-4-336-07338-9  
言語：日本語  
定価：本体 13,200 円（税込）

## 事務局通信

【編集部より】 東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。また、ご寄稿もお待ち申し上げております。尚、ご連絡は手紙、メール等（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

### 当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

#### (1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

#### (2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000 円

・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

#### (3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

#### 【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受けた「公益財団法人」であり、さらに、令和2年3月27日に「税額控除」対象法人の要件を満たす証明書を内閣府より受けましたので、上記（1）（2）の一般ご寄付及び維持会賛助会の会費は、税制上の優遇措置を受けられます。①「所得控除」②「税額控除」のいずれか減税効果の高い方を選択できます。

多くの場合、「税額控除」を選択されると所得税額が少なくなり有利となります。一方、所得税率の高い方は、「所得控除」を選ばれると還付額が大きくなる場合もあります。確定申告の際には最寄りの税務署にご相談ください。

### 公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶専任研究員紹介、書籍案内
- ▶公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど

東方学院専用ホームページ URL :

<https://www.toho-gakuin.org>

（スマートフォン対応）

東方学院

検索

- ▶東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 令和4年度後期号（通号第41号）

令和5年2月14日発行

【編集／発行】公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局

編集責任者：釈悟震

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082